

東日本大震災 三沢市の記憶

三沢市教育委員会 歴史民俗資料館





三沢市社会教育委員：沼田石氏

東日本大震災発生から1ヶ月後の4月11日、日本政府は世界各国の主要紙に、東日本大震災への支援を感謝する菅直人首相(当時)のメッセージ広告を掲載しました。

菅首相の署名入りメッセージは「Thank you for the Kizuna(きずなをありがとう)」と題され、英紙フィナンシャル・タイムズ他、アメリカ、イギリス、中国、韓国、ロシア、フランスの6か国の7紙に、紙面の4分の3のサイズで掲載されました。

“地震 海鳴り ほら津浪”

平成23年3月11日、三陸沖を震源として発生した東日本大震災は、日本列島に多大な被害をもたらしただけでなく、我々の心の奥底にも大きな爪痕を残しました。三沢市においても2名の死者並びに三沢漁港の壊滅的な被害を始め数々の被害を受けました。

今なお復興へ向け不断の努力をされている関係各位には、衷心より感謝と敬意を表します。当市は本州最北部での津浪被災地であり、あの瞬間から1年の時を経て、復旧・復興への道筋が見えてきたところではありますが、未だ岩手、宮城、福島等の太平洋沿岸の被災地では早期の復旧・復興が待たれております。

三沢市を含む三陸沿岸では古くから幾多の津波被害に見舞われて参りました。そして、当市ではその教訓が「地震 海鳴り ほら津浪」という言葉で、永く伝えられてまいりました。市では震災からの復興に並行して、震災の記憶を記録として残し、そして永く後世に伝えるため、三沢市歴史民俗資料館において震災より6ヶ月目となる9月11日に、被災地の博物館関係施設で初となる震災をテーマとした企画展を開催し、震災の記憶を新たに共有する展示を実施いたしました。

記憶というのは、日々薄れて行き、時を経るに連れ語られなくなっていくものと思います。この度、「東日本大震災 三沢市の記憶」を発刊するにあたり、その時々今回の震災の記憶を思い起こす一つの題材となることを切に願います。

人間の営みが続く限り災害から逃れることはできません。

しかし、災害に対処する手立ては、その記憶が語り継がれる限り見つけられるものと確信しております。最後に、震災の犠牲者の冥福並びに被災者、被災地の1日も早い復興を願い巻頭の言葉といたします。



平成24年3月

三沢市長

種市 一正

東日本大震災とは

平成23年(2011年)3月11日14時46分、三陸沖の深さ約24kmを震源とする地震が発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは9.0で、これは日本国内においては大正12年(1923年)の関東大震災の7.9や昭和8年(1933年)の昭和三陸地震の8.4を上回る観測史上最大のものとなりました。

この地震で、宮城県栗原市で震度7が観測されるともに、宮城県、福島県、茨城県、栃木県などの広い範囲で震度6強などの強い揺れを観測し、液化現象・地盤沈下・ライフラインの寸断などを引き起こしました。震源域に近い東北地方太平洋岸では非常に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方

には甚大な被害をもたらしました。この津波により福島第一原子力発電所では放射性物質が漏れる事故が発生し、現在もお深刻な事態が続いています。

気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名し、東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う原子力発電所事故による災害については、閣議決定で「東日本大震災」と呼称することとなりました。政府は、閣議により「東北地方太平洋沖地震による災害」を激甚災害に指定、この震災による死者・行方不明者はあわせて約1万9千人に上っています。



平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震

- 発生日時
平成23年3月11日(金) 14時46分
- 震源および規模(推定)
三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近)
深さ24km マグニチュード9.0
- 各地の震度(震度5強以上)
 - 震度7 宮城県北部
 - 震度6強 宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部
 - 震度6弱 岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県西北部
 - 震度5強 青森県三八上北・下北、岩手県沿岸北部、秋田県沿岸南部・内陸南部、山形県村山・置賜、群馬県北部、埼玉県北部、千葉県北東部・南部、東京都23区・多摩東部、新島、神奈川県東部・西部、山梨県中・西部、山梨県東部・富士五湖
- 津波
3月11日 14時49分 津波警報(大津波)発表
3月13日 17時58分 津波注意報全て解除
津波の観測値(検潮所)

えりも町庶野	最大波 15:44	3.5m
宮古	最大波 15:26	8.5m以上
大船渡	最大波 15:18	8.0m以上
釜石	最大波 15:21	4.2m以上
石巻市鮎川	最大波 15:26	8.6m以上
相馬	最大波 15:51	9.3m以上
大洗	最大波 16:52	4.0m

首相官邸ホームページより

三沢では

三沢市は震度4を観測し、未曾有の大津波は沿岸地区に甚大な被害をもたらしました。この震災により三沢市では死者2名、けが人1名のほか、被災した家屋は計188棟。破損・倒壊・流出などの被害金額は78億3千5百万円あまりにのぼりました。(11月17日現在)

3.11 15:30



三沢沿岸空撮 海上自衛隊大湊地方総監部提供

3.11 16:00頃



高瀬川放水路 海上自衛隊大湊地方総監部提供

3.11 16:56



国道338号四川目付近 津波が押し寄せた瞬間

3.11 17:08



四川目金刀比羅神社横

三陸沖 M8.8
国内観測史上最大

大津波、八戸2・7トイ

岩手で26人死亡
宮城で震度7
死者、行方不明多数

原子力緊急事態を宣言
政府初の美浜 福島原発に異常

天候

http://www.dai-ni-honke.co.jp

3.11(金)

- 14:46 東北地方太平洋沖地震発生、市内全域停電
- 14:49 気象庁発表、岩手・宮城・福島の太平洋沿岸に大津波警報、青森県太平洋沿岸は津波警報
- 15:00 避難所開設、国道338号より東側に避難勧告
- 15:04 防災無線放送
「津波警報が発表されました。
国道338号から東側の市民の皆様は避難してください。」
- 15:14 気象庁発表、津波警報を大津波警報に切り替え
- 15:18 三川目小学校・おおぞら小学校に避難所開設
- 15:20 災害対策本部設置
- 15:20 避難勧告から避難指示に変更。対象2,160人、828世帯。
- 15:21 三沢漁港で津波の第一波を確認
- 15:30 三沢漁港内の船33隻、沖へ避難
- 16:57 三沢漁港で津波の最大波を確認
- 17:06 防災無線放送
「地震の影響で市内全域で停電しております。
なお、復旧の見通しは立っておりません。」
- 17:15 市長応接室にて災害対策本部会議
- 17:18 淋代保育所で床上浸水を確認
- 17:22 国道338号 織笠・五川目で道路冠水を確認
- 17:27 織笠小学校前で道路冠水を確認
- 17:30 防災無線放送
「地震の影響で市内全域で停電しております。
なお、復旧の見通しは立っておりません。」
- 17:42 三川目集会所の下まで冠水を確認
- 17:48 塩釜地区住宅の床上浸水を確認
- 18:19 三川目・四川目・五川目・六川目・高瀬川放水路川沿い冠水を確認
- 18:33 青森県上十三県民局、国道338号を封鎖
三沢市、国道338号西側の道路11か所を封鎖

3.12(土)

- 6:00 各避難所へ水・食料を配送
- 6:35 防災無線放送
「水道水は飲まないでください、電力復旧の見通しは立っておりません。」
- 7:25 東北電力から連絡「復旧見込みなし」
- 8:50 三沢警察署、行方不明者の搜索開始
- 9:25 防災無線放送「海岸付近には近づかないでください。」
- 11:20 漁港付近で市内78歳男性の死亡確認
- 12:15 三川目の松林で市内男性60歳の死亡確認
市教育委員会、市内各小中学校3月14日・15日・16日臨時休校と決定
- 15:45 防災無線放送
「暖房を取る際には一酸化炭素中毒にならないよう、炭や練炭・ガスコンロなどの使用には十分注意してください。」
(18時まで20分おきに放送)
- 16:30 市民相談コーナー設置(市役所1階ロビー)
- 17:15 防災無線放送
「現在、市内全域で停電しております。
東北電力では復旧に全力をあげておりますが、現在のところ復旧の目途が立っておりませんので、お知らせいたします。」
(放送時間17:15及び17:35)
- 20:20 気象庁発表、青森県太平洋沿岸に出されていた大津波警報を津波警報に切り替え
避難指示を避難勧告に切り替え
- 22:51 市役所の電源復旧
- 23:43 市総務課、漁港付近を除き市内への送電を確認

3.11 15:44



教師の引率により集団下校する上久保小の児童

3.11 19:44



市役所ロビーに続々と集まる支援物資

3.11 23:19



卒業式の紅白幕が張られた体育館に避難する住民(三川目小)

3.11 23:27



停電のため、明かりが消えた三沢市街(基地正面ゲート前)

3.13(日)

- 6:00 水道事業課、給水車での給水を開始
6:45 防災無線放送
「水道水は飲料水として使用可能ですが、節水協力をお願いいたします。
避難場所は三川目小学校・おおぞら小学校・三沢小学校・木崎野小学校・岡三沢小学校・上久保小学校・第二中学校・堀口中学校です。」
7:30 気象庁発表、津波警報を津波注意報に切り替え
8:05 青森県上十三県民局、国道338号の道路清掃開始
13:30 青森県上十三県民局、国道338号全面通行止め解除
15:05 三沢警察署より連絡、八戸市蕪島から南(岩手県)側において引き潮が発生、津波が発生する可能性があるので海岸付近に近寄らないよう周知していただきたいとのこと
15:10 防災無線放送
「現在、三沢地区沿岸で引き潮が発生しております。市民の皆様は海岸付近に近づかないでください。」
(放送時間15:30・16:00・16:30・17:00・17:58)
17:58 気象庁発表、青森県太平洋沿岸の津波注意報解除

3.14(月)

- 10:00 東北地方太平洋沖地震における被害について、市議会議員へ報告(市役所大会議室)
10:46 防災無線放送
「現在、三沢地区沿岸で引き潮が発生しております。市民の皆様は海岸付近に近づかないでください。」
11:00 防災無線放送
「岩手県4m、八戸市2mの引き潮が発生しております。市民の皆様は海岸付近に近づかないでください。」
11:30 沿岸地域に避難指示
11:50 避難勧告に伴い、第二中学校・三沢小学校に避難所開設
12:55 避難指示解除
14:55 燃料・生活雑貨関連についてCATV文字放送
「燃料の節約をお願いします。地震の影響によりガソリンスタンド等で燃料の在庫が少なくなったり、売り切れの状態となっております。入荷が不安定になっているとことですので、ガソリン等の燃料・灯油・ガスの節約をお願いします。」
17:00 三沢小学校・第二中学校の避難所閉鎖
17:30 防災無線放送
「明日の燃やせるごみは通常通りの収集ですが粗大ごみの収集はできません。」
(放送時間17:30・18:30・19:30)

3.15(火)

- 18:00 三川目小学校・おおぞら小学校の避難所閉鎖

3.12 12:44



市役所1階に設置された情報提供コーナー

3.12 12:48



被災対応について話し合う三村県知事と種市市長

3.12 18:23



炊き出しを行う女性たち(おおぞら小)



3.13 8:15

給水車での給水
(上下水道庁舎前)



横転した軽トラック



打ち上げられ、横転した漁船



1階天井にまで津波の痕跡がみられる漁協事務所



流され破損した
220kl入り重
油タンク

市内各地の被害

漁港の他にも、民家、道路、公共施設等に大きな被害がありました。

三沢駅東口広場では、地震による液状化現象で、深さ40cmの陥没が発生しました。

高瀬川放水路、五川目排水路、三沢川、三川目川の河口部付近では国道338号を超えて津波が押し寄せ、国道の交差点に建物の残骸や壊れた漁業用具、船等が散乱し、交通に支障をきたしました。

淋代保育所では、室内に土砂が流れ込みおもちゃが散乱する事態となりましたが、25人の子供たちは近所のお年寄りが1人ずつおぶって逃げ、無事でした。



デーリー東北 2011年(平成23年)4月15日付



地震による水道管の漏水被害状況
三沢駅東口



国道338号にまで流されてきた瓦礫と漁船 (五川目)



瓦礫が散乱する民家の庭先(三川目)



土砂が流れ込んだ淋代保育園内

不足・混乱

市内では地震直後から停電が発生し、市民生活に様々な影響をもたらしました。

交通網も、信号機が使えないため車の交通が滞り、青い森鉄道や新幹線などの鉄道がストップし、三沢空港も地震当日の夜まで閉鎖となりました。

電気が復旧してからも、入荷が滞ったためガソリンの供給が出来ずにガソリンスタンドが休業したり、開店している店でも給油待ちの車が長い列をなし、完売と共に閉店する店が相次ぎました。

また、市内スーパーマーケットも軒並み食料品が品薄状態となり、連日朝から食料品調達のために人々が長蛇の列をつくりました。



スーパーマーケットの前でできた長蛇の列(3月12日撮影)



終日運休を伝える三沢駅掲示板(3月14日撮影)



「完売」の張り紙を掲げるガソリンスタンド(3月15日撮影)

ガソリン求め長蛇の列

県内降雪が混乱に拍車

給油開始を待ち続けて未明から道路に並んだ車の列。積雪で道幅も狭まり通行の妨げになるケースも出ている。16日午前8時10分、三沢市緑町

16日朝、雪模様をたたき、ガソリンメーターが三沢市内では給油もあともう少し、給油できずじまい。油を使ってもうたつた、給油を待つ市況が市内数カ所のガソリンスタンドに長蛇の列をつくらせた。別々のスタンドには、幹線からあふれた順番待ちの車が交差点の上の妨げになるケースも。路肩の雪にはまり込んで動けなくなる車もあり、新たに降り積もった雪が混乱に拍車をかけた。

午前9時に開店した同市緑町のガソリンスタンド前には、未明から給油待ちの車が並んだ。先頭にいた会社員高嶋忠治さん(39)は、「午前0時前から並んで、青森市内のスタンド

は16日午前、「入荷待ち」の看板を掲げ、休業する店も目立ち、開いている店では数百人の列ができた。

市内の看護師女性(29)はセルフ式スタンドに2時間並んでようやく給油。通勤で車を使うので、夫と二人で上り使うようにしてくりくりしている。地震後初めて給油できた。「安心です」と話した。

あるスタンドの店員は、ガソリンの入荷が不安定で、翌日開店でさきかたづけがつかない状態が続いている」と話していた。

東奥日報 2011年(平成23年)3月16日付夕刊



横倒しになった飼料タンク(六川目)



損壊した民家(塩釜)

復興へ

米軍三沢基地関係者のボランティアや三沢市災害ボランティアに登録する市民が三沢漁港等で本格的な後片付けの作業を展開し、漁協の組合員の心強い手助けとなりました。

その他の被災地区でも泥上げや瓦礫の撤去等を手伝い、被災者からは「人手が多いのは助かります。気持ちも支えられます。」と感謝の声が聞かれました。

震災から約2ヶ月後の5月9日には水揚げが再開され、三沢の浜は少しずつ活気を取り戻しています。



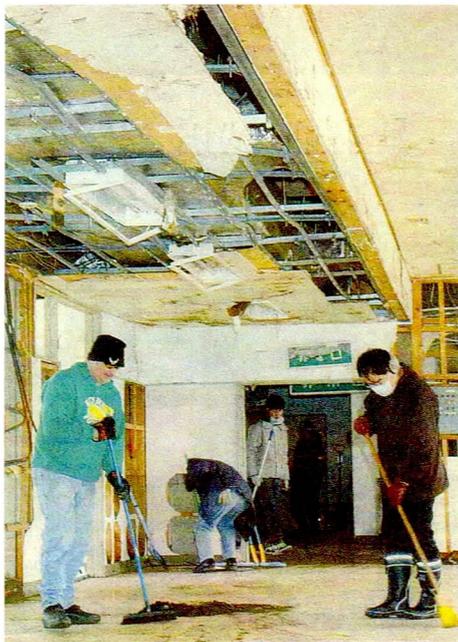
漁港の瓦礫撤去作業を行う米軍三沢基地関係者(3月14日撮影)



瓦礫撤去作業に参加するボランティア(3月20日撮影)



漁港で活動するボランティアに焼き出しを行う女性グループ(3月20日撮影)



三沢市災害ボランティア

郷土復興へ「頑張る」漁港などで片付け作業

津波被害を受けた三沢市漁協事務所の片付け作業に取り組む災害ボランティア＝18日午前11時すぎ、三沢市災害ボランティアに登録する市民が、壊滅的な被害を受けた三沢漁港などで、本格的な後片付けの作業を展開している。まとまった人数での作業は既に17日にスタート。「自分たちも何か役に立ちたい」と郷土の復興を願って、作業に精を出している。

18日は男性22人が参加し、漁港前の市漁協事務所などの後片付けを行い、前日に引き続き、土砂やごみを運び出した。

また別の4人組は、市沿岸北部の塩釜地区に入り、被災した家屋から荷物の運び出す作業を手伝った。

数日前に現場に入ったグループのリーダーの髪を降さんまは惨状に「とにかく驚いた」と言う。この日も仲間には大きな声で指示を出しながら自らも懸命に動き、「復興に向けてとにかく頑張るだけ」と力強く語った。

ボランティアの中には米軍三沢基地内にあるエドクレン高校の教員4人も。クリス・オメガさん(56)は、「ニュースを見ていただけは(被災者)に失礼だと、節電で休校となったのを利用して参加。2日目の作業も1体は大丈夫。いっぱい手伝いたい」と話し、黙々と作業をこなした。

前日の17日には、高校生を含む女性ボランティア14人が、漁港で活動する男性グループのために焼き出しを行った。

ボランティアたちは19、21日の連休中、漁港周辺を三川目、六川目地区の防風林で、がれきの撤去などを行う。20日は、同基地から100人規模の米軍関係者が参加する予定。

震災を伝える

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。ここ青森県三沢市でも沿岸部を中心に大きな被害を受けました。歴史民俗資料館では三沢市の被災状況についてお知らせし、この震災の経験をすべての市民に共有し、伝承することが大切ととらえ、また、漁業を再建するべく尽力している関係者を応援するとともに防災についてのまたとない啓蒙のきっかけになることを願って、震災から6ヶ月目の節目となる9月11日から翌年3月11日までこの企画展を開催いたしました。

三沢市歴史民俗資料館活性化事業 第1回企画展
地震海鳴りほら津浪2011
 ～三沢の漁業を襲った東日本大震災～

開催期間：
 平成23年9月11日(日)～平成24年3月11日(日)

企画展 展示の様子



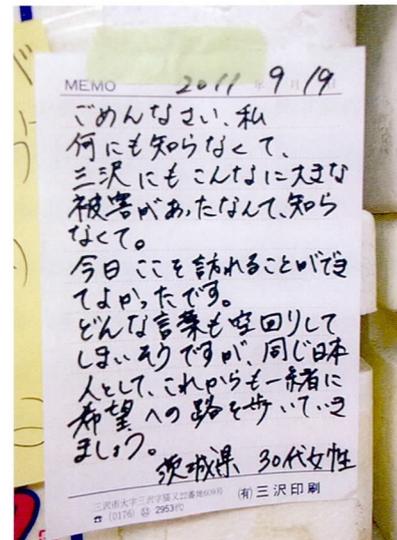
企画展特別講演の様子(講師・国立民族学博物館准教授 林勲男氏)
 (11月12日開催)



復興を祈念して演じられた神楽(塩釜神楽保存会)(11月12日開催)

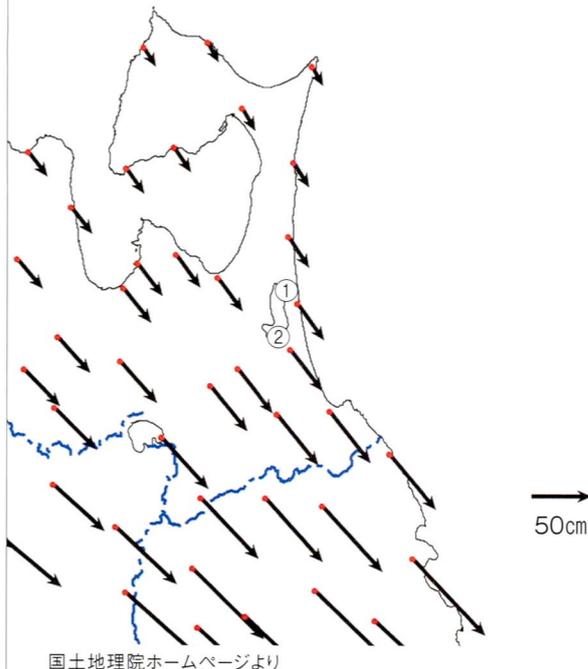


展示を見学する人々



見学者からの
 メッセージ

東北地方太平洋沖地震に伴う
地殻変動(三沢および周辺)



国土地理院ホームページより

地区	水平変化量(m)	高さの変化量(m)
①三沢市織笠	0.38	0.00
②三沢市東町	0.44	-0.01

数字で見る
三沢市の被害

- 人的被害
 - 死者 2名
 - けが人 1名
- 家屋被害(非住家含む)
 - 全壊 96棟
 - 大規模半壊 18棟
 - 半壊 29棟
 - 一部損壊 45棟
- 浸水面積
 - 6平方キロメートル
 - (市面積120平方キロ)
- 避難人数
 - 1,062人(3月12日)
- 被害金額
 - 78億3,511万1千円
 - (平成23年11月17日現在)

三沢市の被害額 (平成23年11月17日現在 三沢市総務課まとめ)

総額 78億3,511万1千円

項 目		被害額(千円)
生活関係	配水管・配水場などの水道施設	6,439
農地関係	田	275
畜産関係	牧草・飼料作物など	576
農業関係共同利用施設(市所有)	市食肉処理センター浄化槽	900
非共同利用施設(畜産)	牛舎・馬舎など	61,234
非共同利用施設(畜産以外)	農業用倉庫・ビニールハウスなど	434,777
農地・農業用施設関係	排水路・人工砂丘・防潮護岸など	2,143,551
三沢海岸関係	ヘッドランド防潮護岸施設	134,625
水産関係(三沢漁港)	漁船・漁具・漁港施設	4,532,586
商工業・観光施設	市民の森老人福祉センター・小川原湖畔施設	15,006
土木施設	市道・三沢川河口・農業集落排水汚水処理場(三川目地区)	188,738
福祉施設	淋代保育所・栄町ぬくもりの家・特別養護老人ホームひばり苑	67,546
その他の公共施設	くらしを守る森公園・三沢駅東口広場・総合体育館・図書館・CATV施設・小学校ほか	100,178
住家	全壊19ほか大規模半壊・半壊・一部損壊	73,763
非住家	全壊77ほか大規模半壊・半壊・一部損壊	74,917

発刊にあたって

～考えよう！わたしたちの命と安全～

平成23年3月11日、午後2時46分に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に、未曾有の被害をもたらしました。

三沢市においても、2名の犠牲者を始め、数々の被害を受けました。謹んで、哀悼の真を捧げます。並びに、被害にあった皆様には、衷心よりお見舞い申し上げます。

「今日のニュースは、明日への教訓や歴史となる」という観点から三沢市教育委員会では、震災の記録を残し、防災教育に役立てる必要があると考えました。

「東日本大震災 三沢市の記憶」の発刊が、記録としてだけでなく、災害対策の一助となるよう願っています。

地震発生時において、市内小・中・高校生が、時と場に応じ適切な指示のもとに行動ができ、下校時にもかかわらず、一人の事故もなかったことは、三沢市の財産であります。

今後も、学校・家庭・地域が一体となり、災害時には命を大切にす
る心・助け合う心を持ち、適切かつ迅速に対処できる危機管理に対する
共通理解、意識向上が図られることを切にお願い申し上げ、発刊の言
葉といたします。

平成24年3月

三沢市教育委員会

教育長 吉田 健

このたびの東日本大震災により被災された皆様に
謹んでお見舞い申し上げますとともに、
一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

三沢市教育委員会 歴史民俗資料館



東日本大震災 三沢市の記憶

発行者

三沢市教育委員会
歴史民俗資料館

発行日

平成24年3月

協力

三沢市漁業協同組合
海上自衛隊大湊地方総監部

デーリー東北新聞社

東奥日報社

三沢市政策財政部広報広聴課

三沢市経済部農政水産課

三沢市総務部総務課

テラヤマ・ワールド